

N I P P O

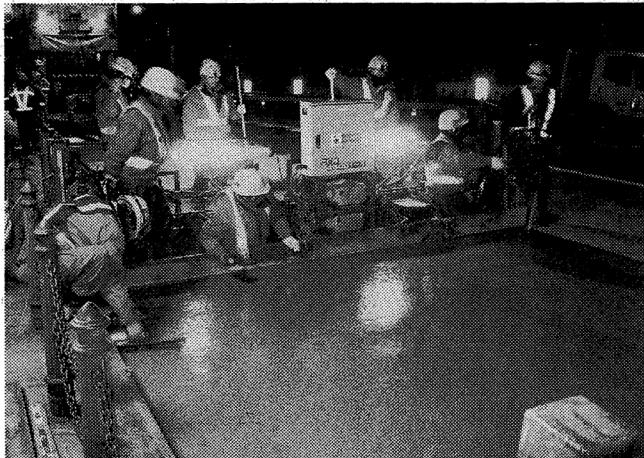
床版增厚工法

NIPPOは、市町村道などの中小橋梁をターゲットに、床版増厚工法「スマートオーバーレイ」の提案活動を積極的に進める。低騒音型コンクリートフィニッシャーによって既設床版に新しいコンクリートを打設し、耐久性を高めるもの。大型重機が不要で騒音が小さく、狭いエリアでの施工が可能で、「中小橋梁の補修・補強に最適」とみている。2月に都道環状7号線・富士見橋（東京都北区）で夜間に行われた補修工事に適用。騒音対策、規制時間の短縮が求められる状況下で順調に作業を終えており、施工実績とフィニッシャーの機能をPRしていく。

スマートオーバーレイは、「スマートファイニッシュシャー」と呼ぶ専用のコンクリートファイニッシュシャーを使うのが特徴。4トンの走行用レールを大型クレーンやファイニッシュシャーの走行用レールを使用・構築する必要がない。

打設するコンクリート（膨張J-コンクリート（膨張Je））を用いる。打設騒音は約10dB低減で材入り鋼纖維補強超速硬t SFRC）を用いる。

には、耐久性に優れ、養生時間も短縮できる膨張ファイニッシュシャーは08年に開放が可能だ。スマート打設音は約10dB低減で



スマートフィニッシャによる打設作業

開発。3月末時点で29件、実績がある。
約3・1万平方㍍の施工——市町村道の中小橋梁

低騒音の小型機で打コン

は、幅員が狭く、補修・補強が必要であっても交通規制や作業エリアの確保といった施工条件が課題となって、対応が遅れるケースがある。N.I.P.O.は、こうした道路の管理者に、短い規制時間で経済的な施工が可能なスマートオーバーレイを売り込む考え。

都道環状7号線の工事では、騒音の低減効果が高く評価されており、沿道対策にも効果的な技術としてアピールする。そして、鋼床版の疲労対策への着目も進め、本年度にスマートオーバーレイで約2万平方㍍の施工を目指す。

日刊建設工業新聞
平成24年7月10日掲載